

園だより 10月

おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、
自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

エフェソの信徒への手紙 4章 16節

今年の9月は残暑が厳しい日や肌寒い日、週末になると台風がやってきたりと、めまぐるしい変化のあったひと月でした。その様な天候の日々の中、今年度のお楽しみ保育「スズナ村」での冒険は良い天気にも恵まれ、豊かな自然環境の中、年長組の子どもたちは幼稚園の日常では経験し難い多くの体験をしてきました。溢れる恵みに感謝でした。

2学期に入り、保護者の方々のご協力によりプールが仕舞われた後には広い園庭が戻ってきました。さて、子どもたちはどの様に遊ぶのでしょうか。楽しみに見守りました。数か月間、プールを挿んで園庭のあっちとこっち、見通しの良くない環境を上手に使ってかくれんぼや鬼ごっこをしていた子どもたちは、どこからでもあっちもこっちも見渡せる園庭に一瞬戸惑いを感じた様子。けれどもそれは一瞬。園庭全体にぱっと散っていききました。日に日に遊具を園庭の真ん中にも持ち出し思い思いの遊びが展開し始められています。穏やかな幼稚園の日常の中で、一人ひとりそれぞれのペースで想いを巡らし色々考え心と体を動かす毎日が一年の中で一番充実する2学期。そこで繰り広げられる様々な心持ち。どれをも大切に、成長の糧として捉え、子どもたちと共に過ごして参りたいと思います。心地よい気候の秋の日々が続くことを期待します。

園庭では何年ぶりかで幼稚園のマテバシイが実を付けました。夏期保育のころ、小さな緑色のどんぐりの赤ちゃんを見つけ、子どもたちとずっと見守ってきました。日に日に大きくなり色も秋色に変わっていきます。台風の後にはどんぐりになりかけで落ちてしまった枝を愛おしそうに集める子どもたちの姿もありました。暫くは朝、園庭に落ちたどんぐりを ごっこ遊びや季節の飾りに用いたり、時には宝物としてポケットの中へ、そんな日々が続くことでしょう。幼稚園内の身近な樹だからこそ、毎日の小さな変化に気が付きながら命を感じ過ごせる、そんな環境をとっても大切に思います。

心地よい季節を益々感じられるであろう10月の日々、存分に楽しみ実りあるひと月を願います。変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

園長 駿河 幸子

